

NTT is...

2012
summer

夏

この絵はNTTの海外拠点がある国をイメージしています。どこの国かは14ページをご覧ください。





代表取締役社長
うの うら ひろ お
鵜浦 博夫

平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。ここに「NTTis…2012夏号」をお届けするにあたり、謹んでご挨拶申し上げます。

このたび、前社長 三浦 惺の後任として社長に就任いたしました。競争がますます激化する一方で、大きな変化と発展が続く情報通信市場において、お客様からいつまでも信頼していただける企業を目指し、NTTグループの一層の発展のため全力を尽くしてまいります。

2012年3月期は、前年度に引き続き増収・増益を達成し、増収決算としては2期連続、増益決算としては3期連続となりました。

2013年3月期（今年度）は、2008年5月に公表した中期経営戦略の最終年度です。増収・増益を維持していくため、成長分野である海外・クラウド事業の強化を推進するとともに、「Xi(クロッシィ)」対応端末の充実や提供エリア拡大などに取り組み、スマートフォンをご利用のお客様の更なる拡大を図ります。また、二段階定額サービス「フレッツ 光ライト」や宅内での「フレッツ光+Wi-Fi」などによる「フレッツ光」の需要の掘り起こしにも引き続き取り組んでまいります。厳しい競争環境の中、コストコントロールにも従来以上に注力し、営業利益は対前年570億円増の1兆2,800億円を見込んでおります。

今年度以降の成長を期待する重点分野として、次の3つの分野における取り組みを強化してまいります。2012年3月期には約6,800億円であったこれらの分野の売上高を、今年度には約8,600億円へと、1年で3割近く増収を図ってまいります。

①「アプリケーション・コンテンツ」(個人のお客様向け)

NTTドコモが提供開始した「dマーケット」、「dメニュー」、NTTドコモの子会社であるmmmbiが提供開始した「NOTTV」、NTTぷららが提供する「ひかりTV」などに加え、NTTドコモの提供するクラウドサービスを総称した「ドコモクラウド」を展開してまいります。

②「ビッグデータ・M2M」(法人のお客様向け)

ビッグデータ*1については、膨大かつ構造が複雑なデータを高速処理することにより様々なソリューションを提供してまいります。

M2M*2については、自動販売機や水道・ガスのメータに加え、建設機械や自動車、橋梁などの公共インフラを通信で監視するソリューションに取り組んでまいります。

③「データセンタ・クラウドビジネス」(法人のお客様向け)

既にサーバーラーム面積は全世界で36万m²と世界最大規模となっており、データセンタ*3間のネットワークも世界中をカバーしております。今後もグローバル企業のクラウド移行・総合的なICT(情報通信技術)のアウトソーシングニーズなどに応えていく考えです。

株主還元については、今年度の1株当たりの年間配当金を20円増配の160円とし、中間期より実施する予定です。

また、利益成長と資本効率の改善にも引き続き取り組み、1株当たり当期純利益(EPS)を中期的に60%以上成長させていく考えです。

株主の皆様におかれましては、より一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2012年6月

- *1 ビッグデータ
SNSや口コミサイトなどへ投稿される、文字情報、画像、図表、音声などを含んだ、従来の技術では管理や処理が困難とされるほど量が膨大かつ構造が複雑なデータの集まり。
- *2 M2M (Machine to Machine)
機器同士が相互に自律的に情報交換するための技術または仕組み。遠隔でのデータ収集・監視・制御に活用することで、業務プロセスの効率化、サービスの高度化、新たなサービスの創出などへの活用が可能。
- *3 データセンタ
サーバーなどの各種のコンピュータやデータ通信などの装置を設置・運用することに特化した建物の総称。

新しい経営陣のご紹介

取締役会長	三 浦 惺	常務取締役	篠 原 弘 道	常勤監査役	牧 谷 嘉 孝 上 坂 清 (新任)
代表取締役社長	鵜 浦 博 夫	取 締 役	坂 井 義 清 (新任)	監 査 役	本 林 徹 友 永 道 子 (新任)
代表取締役副社長	片 山 泰 祥 渡 邊 大 樹		小 林 充 佳 (新任)		落 合 誠 一 (新任)
			島 田 明 (新任)		
			辻 上 広 志 (新任)		
			奥 野 恒 久 (新任)		
			白 井 克 彦 (新任)		
			榊 原 定 征 (新任)		

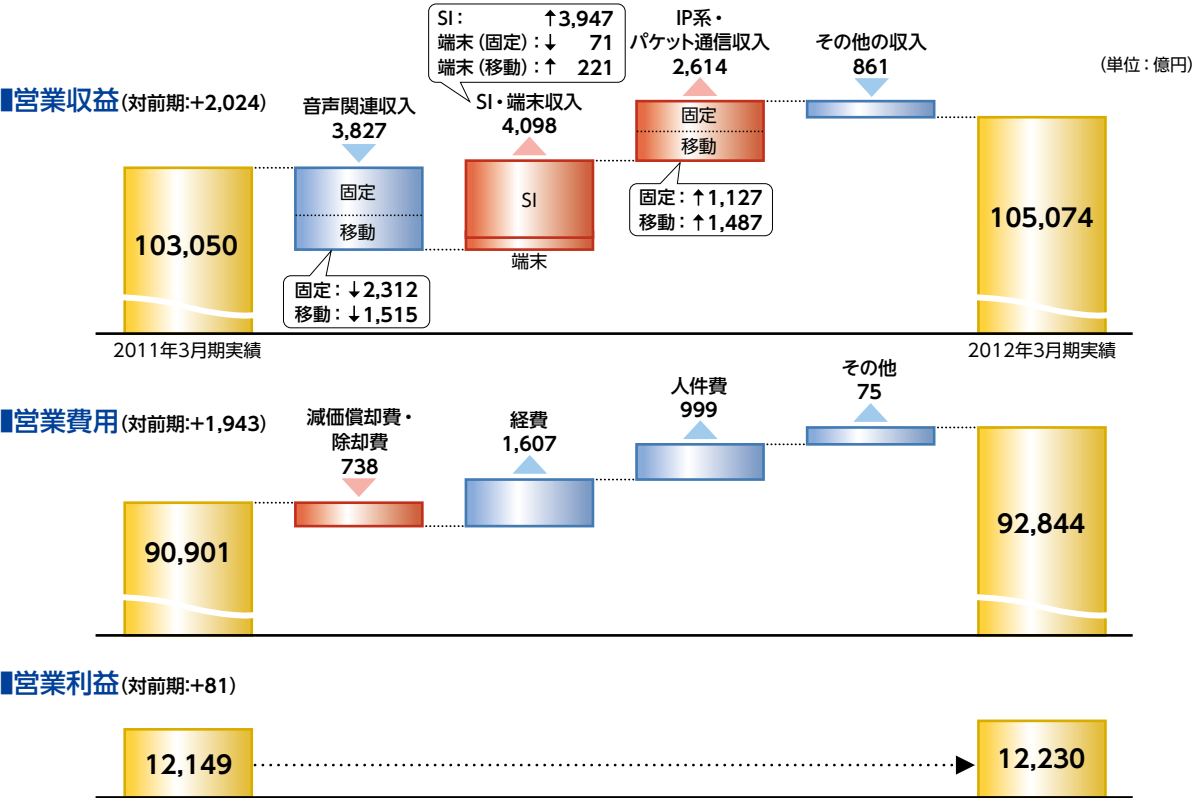
取締役12名および新任の監査役2名については、平成24年6月22日の株主総会にて選任されました。

2012年3月期連結決算の状況

『2期連続の増収・増益』

- ▶▶営業収益は前期と比べて2,024億円 (2.0%) 増加の10兆5,074億円
 - ・音声関連収入の減少はあるものの、海外売上を中心としたシステムインテグレーション収入が増加
- ▶▶営業費用は前期と比べて1,943億円 (2.1%) 増加の9兆2,844億円
- ▶▶営業利益は前期と比べて81億円 (0.7%) 増加の1兆2,230億円
 - ・NTT東日本やNTT西日本が減益した一方で、NTTドコモやNTTコミュニケーションズが増益
- ▶▶当期純利益は前期と比べて419億円 (8.2%) 減少の4,677億円
 - ・法人税法改正の影響により減益となる一方、営業外損益の改善もあり業績予想 (4,650億円) を上回る

2012年3月期連結決算の内訳 (科目別)



連結および主要な会社別損益状況

NTT連結とは、NTTグループ連結子会社772社、持分法適用会社106社の連結決算を表しています。
ここでは、主な5社として、NTT東日本、NTT西日本、NTTコミュニケーションズ、NTTデータ、NTTドコモを掲載しております。

(単位: 億円)

区 分	NTT連結 *1	NTT東日本 *1	NTT西日本 *1	NTT コミュニケーションズ *1	NTTデータ *1	NTTドコモ *1
営 業 収 益	105,074	18,515	16,763	9,810	12,511	42,400
(対前期増減額)	(2,024)	(△1,056)	(△817)	(△523)	(892)	(157)
(対前期増減率)	(2.0%)	(△5.4%)	(△4.6%)	(△5.1%)	(7.7%)	(0.4%)
営 業 費 用	92,844	18,012	16,393	8,752	11,707	33,655
(対前期増減額)	(1,943)	(△787)	(△691)	(△648)	(871)	(△140)
(対前期増減率)	(2.1%)	(△4.2%)	(△4.0%)	(△6.9%)	(8.0%)	(△0.4%)
営 業 利 益	12,230	503	370	1,057	804	8,745
(対前期増減額)	(81)	(△268)	(△126)	(124)	(21)	(297)
(対前期増減率)	(0.7%)	(△34.8%)	(△25.4%)	(13.4%)	(2.7%)	(3.5%)
税 引 前 利 益	12,393	*2 752	*2 423	*2 1,189	*2 755	8,770
(対前期増減額)	(635)	(△208)	(△207)	(153)	(△1)	(416)
(対前期増減率)	(5.4%)	(△21.7%)	(△32.8%)	(14.8%)	(△0.3%)	(5.0%)
当 期 純 利 益	*3 4,677	321	204	583	304	*4 4,639
(対前期増減額)	(△419)	(△201)	(△285)	(△106)	(△68)	(△266)
(対前期増減率)	(△8.2%)	(△38.5%)	(△58.2%)	(△15.5%)	(△18.4%)	(△5.4%)

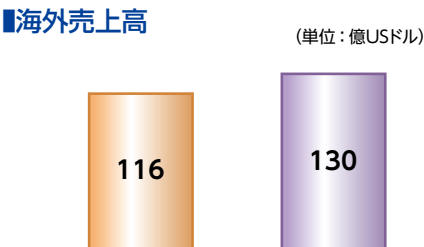
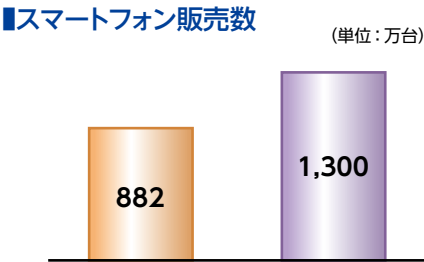
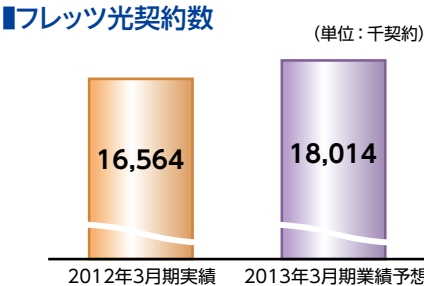
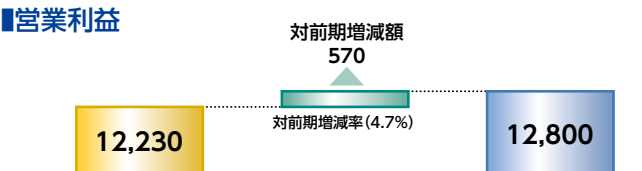
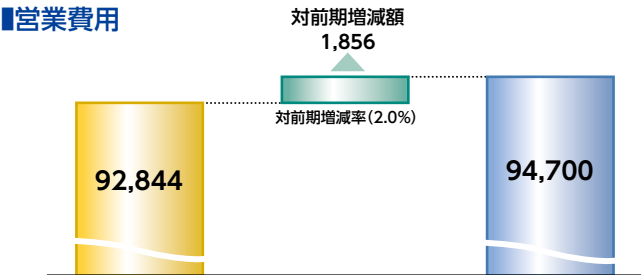
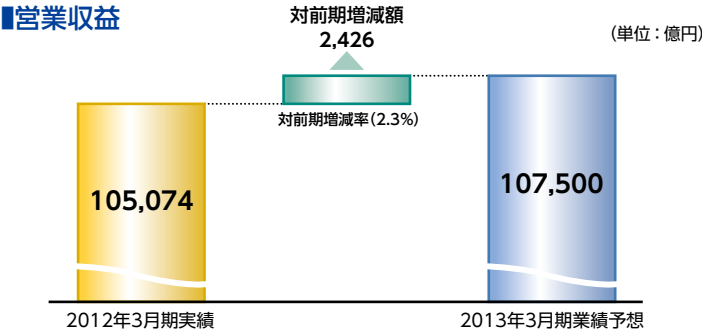
*1 当社およびNTTドコモは米国基準 (連結)、NTT東日本、NTT西日本およびNTTコミュニケーションズは国内基準 (単独)、NTTデータは国内基準 (連結) に準拠して作成しております。
*2 NTT東日本、NTT西日本、NTTコミュニケーションズおよびNTTデータの税引前利益欄には、経常利益を記載しております。
*3 NTT連結の当期純利益は、当社に帰属する当期純利益 (非支配持分帰属分控除後) を記載しております。
*4 NTTドコモの当期純利益は、NTTドコモに帰属する当期純利益 (非支配持分帰属分控除後) を記載しております。

2013年3月期業績予想

『3期連続の増収・増益を見込む』

- ≫ 営業収益は前期と比べて2,426億円 (2.3%) 増加の10兆7,500億円
- ≫ 営業利益は前期と比べて570億円 (4.7%) 増加の1兆2,800億円

2013年3月期業績予想



連結および主要な会社別業績予想

(単位：億円)

区 分	NTT連結 *1	NTT東日本 *1	NTT西日本 *1	NTT コミュニケーションズ *1	NTTデータ *1	NTTドコモ *1
	NTT	NTT東日本	NTT西日本	NTT Communications	NTT DATA	docomo
営 業 収 益	107,500	18,680	16,450	9,550	12,800	44,500
(対前期増減額)	(2,426)	(164)	(△313)	(△260)	(288)	(2,100)
(対前期増減率)	(2.3%)	(0.9%)	(△1.9%)	(△2.7%)	(2.3%)	(5.0%)
営 業 費 用	94,700	18,030	16,050	8,550	11,950	35,500
(対前期増減額)	(1,856)	(17)	(△343)	(△202)	(242)	(1,845)
(対前期増減率)	(2.0%)	(0.1%)	(△2.1%)	(△2.3%)	(2.1%)	(5.5%)
営 業 利 益	12,800	650	400	1,000	850	9,000
(対前期増減額)	(570)	(146)	(29)	(△57)	(45)	(255)
(対前期増減率)	(4.7%)	(29.2%)	(8.0%)	(△5.4%)	(5.7%)	(2.9%)
税 引 前 利 益	12,650	*2 850	*2 500	*2 1,100	*2 780	9,030
(対前期増減額)	(257)	(97)	(76)	(△89)	(24)	(260)
(対前期増減率)	(2.1%)	(13.0%)	(18.0%)	(△7.6%)	(3.2%)	(3.0%)
当 期 純 利 益	*3 5,750	530	400	670	380	*4 5,570
(対前期増減額)	(1,073)	(208)	(195)	(86)	(75)	(931)
(対前期増減率)	(22.9%)	(64.8%)	(95.2%)	(14.9%)	(24.8%)	(20.1%)

- *1 当社およびNTTドコモは米国基準（連結）、NTT東日本、NTT西日本およびNTTコミュニケーションズは国内基準（単独）、NTTデータは国内基準（連結）に準拠して作成しております。
- *2 NTT東日本、NTT西日本、NTTコミュニケーションズおよびNTTデータの税引前利益欄には、経常利益を記載しております。
- *3 NTT連結の当期純利益は、当社に帰属する当期純利益（非支配持分帰属分控除後）を記載しております。
- *4 NTTドコモの当期純利益は、NTTドコモに帰属する当期純利益（非支配持分帰属分控除後）を記載しております。

本誌に記載されている予想数値および将来の見通しは、不確定性・不確実性を含んでおり、実際の業績などにつきましては、今後の経済や情報通信業界内外の動向、新たな技術・サービスや料金水準などにより変動することがあります。従って、当社として、その確実性を保証するものではありません。

情報通信市場の潮流

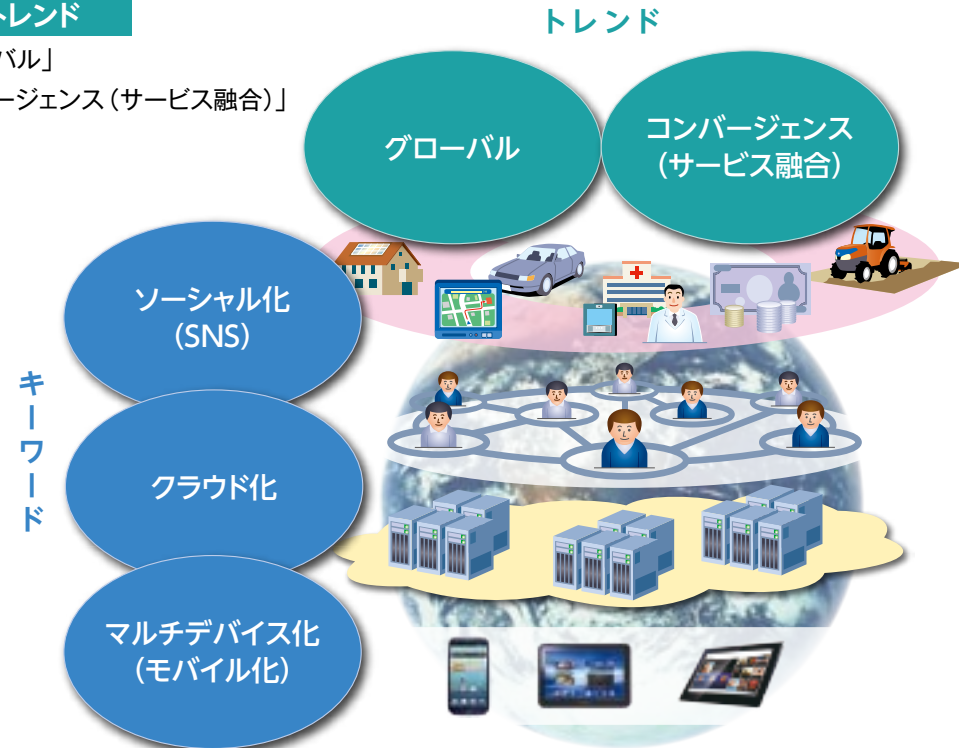
大きな変化と発展が続く情報通信市場を象徴する言葉として、3つのキーワードと2つのトレンドがあり、それぞれが重なり合う分野の成長が期待されています。

3つのキーワード

- ・人と人との双方向コミュニケーションを可能にする「ソーシャル化 (SNS)」
- ・サーバなどのハードウェアやソフトウェアを購入 (所有) することなく、様々なサービスがネットワークを経由して利用できる「クラウド化」
- ・使う端末の種類を問わず同じサービスを利用できる「マルチデバイス化 (モバイル化)」

2つのトレンド

- ・「グローバル」
- ・「コンバージェンス (サービス融合)」

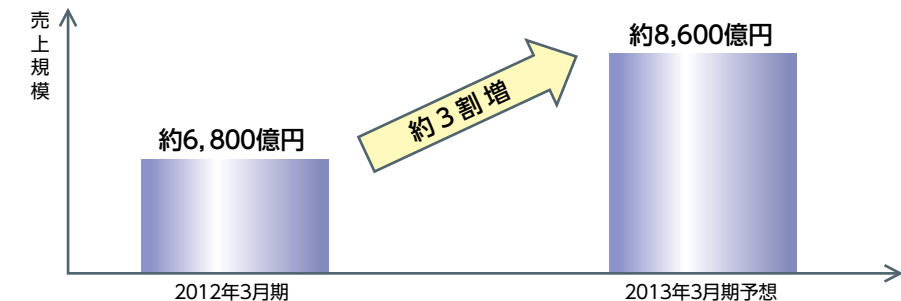


重点分野における取り組みの強化

情報通信市場の潮流を踏まえ、NTTは今年度以降の成長を期待する重点分野として、以下の3つに取り組んでまいります。

3つの重点分野からの売上高実績は2013年3月期 (今年度) で約8,600億円を見込んでおり、前年比で3割近く
の増収を目指してまいります。

重点分野	
個人のお客様向け	①アプリケーション・コンテンツ ・顧客基盤を活かし、多様なアプリケーション (dマーケット等)、コンテンツ (ひかりTV、NOTTV等) をマルチデバイスで提供。 ・上記をサポートする課金・決済 (回収代行・iD/DCMX等)、セキュリティ・サポートサービス (ウィルスチェック、ケータイ補償等) を充実。
	②ビッグデータ・M2Mソリューション ・大量かつ複雑なデータの高速処理により企業の付加価値を高めるソリューションや、センサ・モニタなどへのM2M利用を推進。 ・大容量・高速度データ処理技術、分析力、ネットワークサービスからソリューションまでの総合的な提供。
法人のお客様向け	③データセンタ・クラウドビジネス ・データセンタのサーバールーム面積は36万m²で世界トップレベル。大容量・低遅延のネットワークで、世界200拠点超のデータセンタをカバー。 ・自治体クラウド・医療クラウドや、グローバル企業のクラウド移行・総合的なICTのアウトソーシングニーズに応えていく。



NTTの今後の重点分野「ビッグデータ・M2M」について

NTTグループは、2012年5月11日の決算発表において、今後の重点分野を発表しました。
ここではその中の1つである「ビッグデータ・M2M」に関する取り組みについてご紹介します。



*1 Social Networking Serviceのこと。参加する人々が互いに自分の趣味、好み、生活情報などを公開しあうなどのコミュニケーションを目的としたWEBサービス。

*2 ネットワーク上でサービスを提供するサーバ群。



このように機械やセンサがネットワークにつながり、人が操作しなくても自動的にデータのやり取りを行う仕組みのことを「M2M」と言うんだ。

M2M
= Machine to Machine

M2Mが広がると集まるデータの量も種類も増えていくのかな。

そうだね。NTTはこの分野に本格的に取り組もうとしている。NTTが強みとする高品質なクラウドやネットワークが、ビッグデータの収集・分析やM2Mの活用を支える基盤となるんだ。

高品質なクラウド

さらに、NTTの世界トップレベルの研究開発力(R&D)がビッグデータの高速処理を可能にしているんだよ。

Research and Development

NTTは世界に先駆けてビッグデータをリアルタイムに処理・分析する技術を開発しているんだ。

NTT技術による分析の流れ

ネットワーク上のビッグデータ

リアルタイムに処理・分析

処理サーバ

分析結果

分析結果

分析結果

継続して分析

さらに個人情報を守るため、クラウド上のデータを暗号化する技術など、セキュリティについても積極的に研究を進めているんだよ。

安心・安全が一番じゃ。

これらの強みを活かして、NTTはビッグデータやM2Mの分野に取り組み、今後の事業拡大につなげていくんだ！

NTTグループの主なニュースをご紹介します。

1 January

- ➔ 二段階の定額料金で利用可能な光インターネット「フレッツ 光ライト」を提供開始 (NTT西日本)
- ➔ 電力見える化サービス「フレッツ・ミルエネ」を提供開始 (NTT東日本) **TOPICS** >>13ページ
- ➔ 3年間、月々の基本使用料が0円からとなる「応援学割2012」を提供開始 (NTTドコモ)
- ➔ Twitter*などのソーシャルメディア上から企業や製品の評判情報を早期に収集・解析して提供するサービス「評Ban」を提供開始 (NTTアイティ)

2 February

- ➔ 一年目社員を対象とした300名規模の海外研修を実施 (NTTデータ)
- ➔ 自己株式立会外買付取引 (ToSTNeT-3) により、4,182万株、1,583億円の自己株式取得を実施 (NTT)
- ➔ 緊急速報「エリアメール」において「津波警報」の配信を開始 (NTTドコモ) **TOPICS** >>14ページ
- ➔ 遠隔で操作や設定をサポートすることができる「スマートフォンあんしん遠隔サポート」を提供開始 (NTTドコモ)
- ➔ 日経BP社の「第4回クラウドランキング」(日経コンピュータ2012年3月1日号掲載) においてNTTコミュニケーションズが「ベストブランド」と「ベストサービス クラウド基盤サービス (IaaS/PaaS) 部門」(他3部門) に、NTTデータが「ベストブランド」と「ベストサービス データセンター部門」に選出 (NTTコミュニケーションズ/NTTデータ)



3 March

- ➔ 24ヶ月単位での継続利用を前提に月額利用料金を割引く料金プラン「にねん割」を提供開始 (NTT東日本)
- ➔ 災害時にパケット通信を利用して音声で安否などのメッセージを伝えることができる「災害用音声お届けサービス」を提供開始 (NTTドコモ) **TOPICS** >>14ページ
- ➔ スマートフォンに話しかけるだけで情報を調べてくれたり、携帯電話の操作をしてくれたりする音声エージェント機能「しゃべってコンシェル」を提供開始 (NTTドコモ)
- ➔ NTTドコモの携帯電話が6,000万契約を突破 (NTTドコモ)
- ➔ タブレット端末を活用した家族みんなが楽しめる生活密着型サービス「A touch Ru*Run」を提供開始 (NTT西日本)
- ➔ テレビでインターネット上の映像サービスなどを視聴することができるセットトップボックス「光BOX+」を提供開始 (NTT西日本)
- ➔ 安価で拡張性の高い、新たなパブリッククラウドサービス「Cloudⁿ」を提供開始 (NTTコミュニケーションズ)



TOPICS

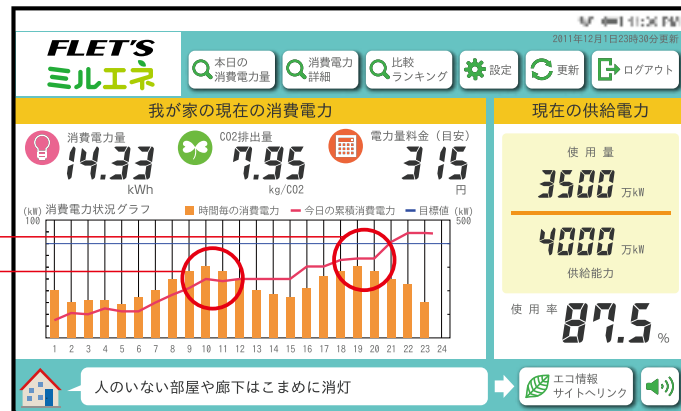
ムダな電気を見つけて節電！ 「フレッツ・ミルエネ」サービス開始

東日本大震災の影響による電力不足を受け、企業や家庭などで、節電のための行動や計画が進められています。NTT東日本は、ご家庭の消費電力量や電力会社が提供する電力供給情報を可視化する「フレッツ・ミルエネ」を2012年1月25日より提供開始しました。

「フレッツ・ミルエネ」は、「光iフレーム」やパソコン、スマートフォンなどを使用して、家庭内の消費電力量や電力量料金、CO₂の排出量などの具体的な数字がひと目でわかるサービスです。節電目標の設定、地域ランキングのチェックなど節電を楽しみながら進めることができます。

今後更なるエネルギー不足も懸念され、家庭内の節電が必要不可欠となることから、NTT東日本は、家庭の節電行動を引き続きサポートしていきます。

■ひと目で消費電力量がわかる「フレッツ・ミルエネ」(基本画面イメージ)



- フレッツ・ミルエネの主な機能**
- 消費電力量
 - CO₂排出量
 - 今日の電力量料金
 - 電力状況グラフ
 - エコアドバイス
 - 供給電力の使用率
 - 目標設定機能
 - ランキング機能

■「フレッツ・ミルエネ」のポイント

- 1. 節電ポイントが一目瞭然!**
消費電力のピークがわかるから、具体的な節電行動に移すことが可能です。
- 2. 取り付けは簡単。分電盤に計測器をつなぐだけ!**
新築、既築どちらの物件にも導入可能です。
- 3. レンタルなら月々420円(税込)で始められる!**
※別途、フレッツ光月額利用料とプロバイダサービス月額利用料がかかります。
- 4. モニタの約9割以上が満足、約7割が節電効果を実感!**
※2011年11月にNTT東日本が実施したトライアルモニターアンケート結果(対象人数1,474名)より。

➡ 「フレッツ・ミルエネ」お問い合わせ先
<http://flets.com/eco/miruene/>

☎ 0120-116116
営業時間：午前9時～午後9時 年中無休 ※年末年始を除く



TOPICS

大規模災害対策に向けた新しい技術とサービス

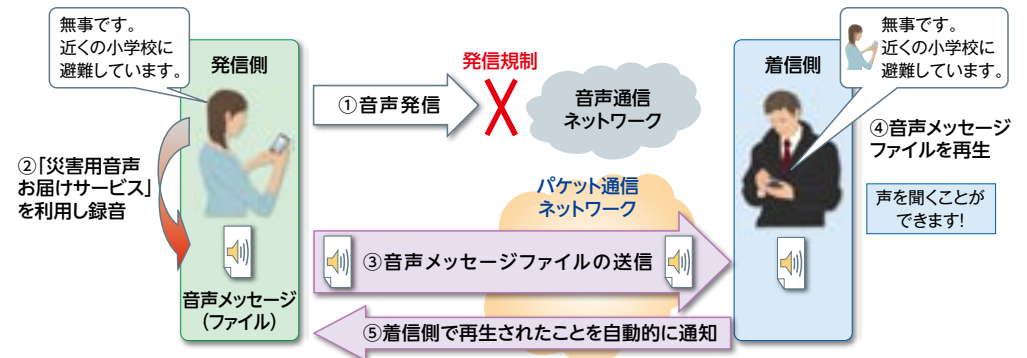
NTTドコモは、東日本大震災の教訓に基づき、「新たな災害対策」を実施しています。この春運用を開始した、災害時に安心・安全を提供するサービスをご紹介します。



“つながる安心”に新技術、「災害用音声お届けサービス」

大規模な災害が起きますと、音声通信が交換機に集中して電話がつながりにくくなることがあります。NTTドコモでは、音声通信と比べてつながりやすいパケット通信を利用し、音声のメッセージで家族や知人の方にお伝えできる「災害用音声お届けサービス」を2012年3月1日より提供開始しました。安否を伝えたい方の携帯電話番号(ドコモ)を入力すると、音声でメッセージを録音できます。

■災害時でもつながりやすい「災害用音声お届けサービス」の仕組み



緊急速報「エリアメール」で“津波警報”をいち早く配信

エリアメールは、気象庁が発表する「緊急地震速報」と、国や地方公共団体が発表する「災害・避難情報」を配信するサービスです。これらの情報に加え、2012年2月24日より、気象庁が発表する「津波警報」の配信も提供開始しました。「津波警報」は1m程度以上の高さの津波が予想され、これにより災害のおそれがある地域で受信できます。NTTドコモは大規模災害時の安定的な通信確保、被災エリアなどへの迅速な対応と更なる利便性の向上を目指します。



表紙の絵の国は

「イギリス」です。
ロンドンオリンピックが開かれます。
みんなで応援しましょう。





株式インフォメーション

住所・氏名など届出事項の変更、配当金振込先の指定について

【証券会社の口座に当社株式が記録されている株主様】

お取引先の証券会社へお問い合わせください。

【特別口座に当社株式が記録されている株主様】

当社特別口座管理機関の三井住友信託銀行へお問い合わせください。

◎住所・氏名の表記について

住所および氏名などの文字のうち、証券保管振替機構が指定していない漢字などが含まれている場合には、その全部または一部を証券保管振替機構が指定した文字に置き換えさせていただくことができますのでご了承ください。

◎未払配当金の支払について

まだ受け取られていない配当金がある場合は、お早めに三井住友信託銀行にお問い合わせください。

株主名簿管理人・特別口座管理機関へのお問い合わせは

〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号

三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

NTT株主様専用電話： **0120-584-400**

代表電話： **0120-782-031**

株主・投資家の皆様向けホームページ

<http://www.ntt.co.jp/ir/>

■NTT東日本・NTT西日本

「電話サービス」に関する
お申し込み・お問い合わせは

(局番なし) **116**

(NTT東日本：午前9時～午後9時 年中無休 ※年末年始を除く)
(NTT西日本：午前9時～午後5時 年中無休 ※年末年始を除く)

「ブロードバンドサービス」に関する
お申し込み・お問い合わせは

0120-116116

(午前9時～午後9時 年中無休 ※年末年始を除く)

■NTTコミュニケーションズ

電話・インターネットのサービスに関する
お申し込み・お問い合わせは

コール・コール
0120-506506

(午前9時～午後9時 年中無休 ※年末年始を除く)

■NTTドコモ

総合お問い合わせ先／各種ご注文受付
〈ドコモ インフォメーションセンタ〉

ドコモの携帯電話からの場合

(局番なし) **151** (無料)

※一般電話などからはご利用になれません。

一般電話などからの場合

0120-800-000

(午前9時～午後8時 年中無休)

※携帯電話、PHSからもご利用になれます。

日本電信電話株式会社



この冊子は環境にやさしい植物油インキとFSC®森林認証紙を使用しています。